

News of the forest



岐阜県の森林・林業

No.869

2026 February

FREE

ご自由にお持ちください。



森のたより

森の恵みをイチゴの実りへ!
(薪ボイラーの農業活用)





企業との協働による森林づくり



県では、県民協働による森林づくりの一環として、「企業との協働による森林づくり」を推進しています。昨年、美濃加茂市において新たな森林づくり協定を締結し、協定締結件数は40件（うち4件は期間終了）となりました。

40

十和（とわ）の里

- 場 所：美濃加茂市山之上町大字下四條里地内他
- 森の名称：十和の里
- 協定期間：令和7年8月1日～令和12年3月31日（5年間）
- 主な活動：里山整備、歩道開設等の森林整備活動
- 面積：2.37ha
- 協定企業：TGロジスティクス株式会社（愛知県一宮市）
日多加産業株式会社（愛知県大府市）
TGウェルフェア株式会社（愛知県清須市）
TGテクノ株式会社（愛知県稲沢市）
中部化学株式会社（加茂郡八百津町）
星和化成株式会社（愛知県大府市）
TGAP株式会社（愛知県一宮市）
小川工業株式会社（愛知県名古屋）
サンワインダストリー株式会社（愛知県知立市）
株式会社関東製作所（東京都）



●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8255 森林活用推進課 森林吸収源対策室 緑化推進係まで



目次	Contents
22	国有林の現場から(112)
21	ルートが変わります御嶽山小坂口
20	イベントカレンダー(一般向け)(林業者向け)
19	スマート林業通信(51)
18	地域の林業事業者の連携をめざして!!
17	普及コーナー
16	研究コーナー
15	森林と人を活かす知恵(157)
14	地域材とデジタル加工がつなぐ、新しいものづくりのかたち
13	木の香るぎふの施設(153) 庄川さくら学園
12	morinos 冬の楽しみ方!
11	シリーズ『森林・環境税で、緑豊かな清流の国ぎふづくり』(10)
10	シリーズ『ぎふ木育全県展開』⑨ 東濃西部地域
9	山の歳時記(246) 冬芽と葉痕
8	ぎふ木遊館通信
7	シリーズ『伐採技術者養成を行いました(開催報告)』
6	わが組合の『頑張るフレッシュヤーズ』
5	森林環境譲与税のお悩み相談は、地域森林管理支援センターへ
4	山行苗づくりを再び!
3	岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムから
2	知事への要望を実施
1	岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムから

今月の表紙

写真は恵那市でイチゴ栽培を行う石川いちご農園さん。栽培ハウスの熱源に間伐材の薪を利用する、農林業連携の取り組み。令和7年度の岐阜県木質バイオマス利用優良事例で最優秀賞を受賞されました。

岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムから 知事への要望を実施

岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム（以下、コンソーシアム）では、昨年12月16日に岐阜県庁において、江崎岐阜県知事に全49項目にわたる提案・要望を行いました。

冒頭、岐阜県議会林業活性化促進議員連盟会長の村下県議よりご挨拶いただいたのち、涌井史郎理事長から知事に要望書を手渡し、趣旨説明を行いました。続いて、県内林業関係5団体【（公社）岐阜県山林協会、岐阜県森林組合連合会、岐阜県木材協同組合連合会、（一社）岐阜県林業経営者協会、（一社）岐阜県森林施業協会】の各会長から、提案・要望の内容を説明していただきました。

今回の提案・要望では、林業・木材産業として、自然と人との共生を基盤とした、持続可能、Well-beingな未来の構築を目指し、地球環境問題の解決を見据えた「自然のちからを活かした地域づくり」を進めるとともに、生物多様性を高め、多様な森林空間と木材を利活用する新たな林業経営と木材利用の推進に向けた取り組みに焦点を当てた内容としました。

江崎知事からは、「里山、木材需要、エネルギー、森林所有、観光、野生動物保護などの課題に幅広くしっかり取り組み、岐阜から新しい住まい方や山の価値を発信し、持続可能な未来を築いていきたい。」などのコメントをいただきました。



提案・要望の参加者



要望項目の説明状況

地球環境問題の解決に資する林業経営と木材利用を推進し

「自然のちからを活かした地域づくり」を主導する林業・木材産業であるために

1. 森を活かし守る

～森林の生態系サービスを総合的に高める保全整備～

- (1) 森林由来のカーボン・クレジットの創出及び利用の拡大
- (2) 脱炭素社会及び生物多様性に貢献する多様な森林への整備推進
- (3) 森林GXに貢献するエネルギーの森づくりの推進
- (4) 野生動物による被害防止のための総合的対策の推進
- (5) 林地・森林土壌保全対策、山地防災力の強化
- (6) 森林の新たな価値を活用する機会の充実

2. 森づくりを支える

～森林を守り活かし社会のWell-beingを高めるための体制整備と人材育成～

- (1) 森林管理・利活用に向けた課題解消と市町村の支援
- (2) 担い手の確保・育成・定着
- (3) スマート林業の推進
- (4) 労働安全対策の体系化と浸透
- (5) 森や木と県民をつなげる場の提供

3. 木の利用を広める

～脱炭素社会に寄与する木材の利用拡大と技術開発～

- (1) 新製品・新技術の開発促進
- (2) 森林を活かす都市（まち）の木造化・木質化の推進
- (3) 多分野への木材利用の拡大

4. 森から木を届ける

～木質資源の生産効率化と安定供給体制の整備～

- (1) 木材の生産効率化の推進
- (2) 林業・木材関連産業における地域サプライチェーンの構築・強化
- (3) 安定供給に向けた製材工場等の体制整備



●詳しい内容を知りたい方は TEL 0575-35-2535 森林技術開発支援センターまで

岐阜県伐木安全技術評価会2025 を開催しました



昨年11月9日(日)、美濃市曾代の森林文化アカデミー・テクニカルセンター前広場において、「岐阜県伐木安全技術評価会2025」を開催しました。

この評価会は、日本伐木チャンピオンシップの公式ルールに準じて、「①丸太合せ輪切り競技」「②伐倒競技」「③枝払い競技」の3種目を実施し、総合得点により順位を競います。

参加者は、県内の森林組合、林業会社、森林文化アカデミーの学生に加え、今回初めて農林高校生も加わりました。また、ゲスト出場として森ジョブアンバサダー「さばいどる かほなん」さんも参加し、総勢27名が競技に臨みました。競技は、ビギナークラス(アカデミー学生、農林高校生、ゲスト)とプロフェッショナルクラス(森林技術者)の2部門に分かれて行いました。

当日はあいにくの雨により、予定していたプログラムを一部変更しましたが、事故等もなく、無事に評価会を終了することができました。

【競技内容】

①丸太合せ輪切り競技

7度傾いた2本の丸太を上下から垂直に切り出し、輪切りの厚さ、切り合わせのズレ、丸太を垂直に切る技術を

競う競技です。



【ビギナークラス競技者】

②伐倒競技(簡易方式)

高さ1mのスギ丸太に受け口と追い口を作り、伐倒方向や「*つる」の高さと幅の正確性、チェーンブレイキの扱いなどの安全動作を競う競技です。



【ビギナークラス競技者】

「*つる」伐倒時に受け口と追い口の間に残す部分。蝶番の役割を果たし、倒れる方向をコントロールする。

③枝払い競技

長さ6mの丸太に差し込まれた30本

の枝を素早く切り落とすと同時に、枝の切り残しや丸太に傷を付けない正確で丁寧な作業を競う競技です。この競技はプロフェッショナルクラスのみの実施です。



【プロフェッショナルクラス競技者】

④マストツリー競技(デモン) 伐倒競技(簡易方式)と同じルールで、高さ15mのマストツリーを15m先の目標目掛けて正確に倒す競技です。



【アカデミー卒業生によるデモンstration実施】

競技の結果は次のとおりです。

【ビギナークラス】

- ・優勝…林 宏幸「森林文化アカデミー」
- ・二位…山田陽介「森林文化アカデミー」
- ・三位…大畑 樹「郡上高等学校」

【プロフェッショナルクラス】

- ・優勝…峽下則人「飛騨市森林組合」
- ・二位…瀧口 健「株」佐合木材
- ・三位…谷口勇司「株」佐合木材

今回の評価会は、農林高校生が森林文化アカデミーでチェーンソー資格を取得するところから始まり、アカデミー学生が母校で技術指導を行うなど新たな交流が生まれました。

また、プロフェッショナルクラス優勝者からは「4年前は最下位。それから技術を磨き優勝できました。」と喜びを語られるなど、評価会の目的である「交流」と「安全技術の習得」が達成できたと感じています。今後も県内の安全意識向上と技術者の交流を深めていきたいと思えます。

雨の中ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



【受賞者のみなさん】

【森林経営課 担い手企画係】



◀こちらから評価会のダイジェスト版の動画がご覧いただけます

林業労働災害レスキュー訓練を

行いました!



林業の現場は、救急車が入れない奥山や携帯電話の電波が届かない場所など、労働災害が発生した際に、対応が難しい環境が珍しくありません。

そこで県では、令和3年度から消防署の協力のもと、救助活動に必要な知識や技術を学ぶ「林業労働災害レスキュー訓練」を実施しています。

令和7年度も、県内5圏域で訓練を実施し、対応力と労働安全意識の向上を図っています。

緊急通報訓練

携帯電話や衛星電話を使い、実際に「119番」通報を体験しました。

衛星電話を使用した訓練では、衛星の捕捉に苦戦する場面もありました。さらに、岐阜県から遠く離れた東京消防庁に繋がるなど、参加者にとっては想定外の事態にも直面しましたが、消防隊員の助言を受けながら、訓練を進めました。

また、山の中で要救助者の位置を伝えることの難しさを実感し、現場に入

る前に消防署と現場の位置情報等を共有する仕組み「G-For Forest緊急通報カード」の必要性を改めて学びました。

救出訓練

倒木の下敷きになった人を救出する訓練では、レスキュー用マネキンを使用して、安全を確認しつつ、チェーンソーで倒木を切断する方法や、周囲にある丸太を活用してテコの原理で重い倒木を除去する方法を学びました。



【救出訓練】

また、倒木を除去せずに救出する方法として、現場の資材を活用し、レス

キュー用マネキンの下にブルーシートを滑り込ませて引き出す方法を学びました。

搬送訓練

要救助者を近くの道まで搬送する訓練では、リュックサックやロープを活用して要救助者を背負って運ぶ方法や、周辺にある枝や衣類などを組み合わせて作った簡易担架による搬送など工夫を凝らした訓練を実施しました。

リュックサックを使った訓練では、体重105kg(自称)の要救助者役を一人で背負う姿も見られました。消防署の搬送技術はもちろん、森林技術者の底力も感じられる場面となりました。

なお搬送には、転倒による二次災害や要救助者の重篤化のリスクを伴うため、急斜面など状況によっては無理に搬送せずに、救急隊を待つことも必要であることを学びました。



【搬送訓練】

応急処置訓練

林業労働災害は、重大事故に繋がりがやすく一分一秒を争う場合があります。救急隊が到着するまでの間に、自分で出来る応急処置として、三角巾を使用した止血や骨折時の固定の方法、心肺蘇生法などを学びました。



【応急処置訓練】

訓練の振り返り

参加者からは、「緊急通報で、自分達のいる場所を伝えるのが大変だった」「消防署員に対処方法を聞く機会はなかなかないので、勉強になった」などの意見がありました。

林業は、全産業の中で労働災害の発生頻度が最も高く、かつ県内の林業労働災害発生件数は下げ止まりの状況にあります。引き続き同訓練を継続するとともに、関係者の安全意識を高める取り組みを進めてまいります。

【森林経営課 担い手企画係】

山行苗づくりを再び！

板津徳次(前富加町長)さんに聞く

戦後、荒廃した森林の復旧を図るための造林が一挙に拡大し、昭和30年頃には県内の造林面積は年間1万haを超えていた。またこれに付随して、山行苗も年間1,500万本程度生産されており、中でも富加町を中心とする加茂地区はこれを支える主産地として、ピーク時には生産者数は80名、年間600万本の苗木を生産していた。しかし、昭和の終わり頃からの造林面積の急激な減少により生産者は激減し、現在は僅か4名となっています。

こうした中、40年以上前から山行苗の生産に携わってこられた前富加町長の板津徳次さんが、在任期間中(平成24年から令和6年まで)に一時休止されていた苗木づくりを再開されたとお聞きし、お話を伺いました。

○富加町がなぜ主産地に？

私、74歳になりますが、そもそも私が子供の頃からこの地では苗木生産は盛んでした。恐らく、終戦後に一挙に造林が拡大したが、苗木の供給は県内産だけでは半分程度しか対応できていなかった。この状況に『岐阜の山は、岐阜の苗を』の掛け声で、県による生産拡大の働きかけが各所にあつたようだ。

富加町は積雪も少なく降水量も適当であつたが、一方で土壌は火山灰が堆積した、いわゆるクロボクで、化学肥料のない時代には農業には適しておらず、この活用先として打つ手

付であつたのだろう。

昭和32年に父親が初代組合長となり、生産者30名で加茂地域(関市・美濃加茂市を含む)の種苗組合を設立したが、あつという間に組合員は80人まで拡大した。この地に一つの産業ができたことは、当時の県職員の熱心な指導のおかげと今でも感謝しています。



苗圃でのコンテナ移植用苗づくり

○苗木生産を引き継いで

苗木で大学まで行かせてもらったと思つている。専攻が造園学科だったので、卒業後10年ほど造園会社に通ったが、さすがに両親も高齢というところで、昭和58年に家業を引き継いだ。当時でも造林はかなり減っていたが、野菜を作るよりはるかに採算性があり、数年間は順調だつ

た。しかし、平成の10年代に入ると厳しくなつた。この時期、売れない苗木に火をつけて処分した時は、さすがに辛かつたことを思い出す。

そんな中、14年前に岐阜県山林種苗協同組合の組合長という立場にいたおかげかもしれないが、国の試験場に呼ばれ、「苗はすべて国有林で使うから、コンテナ苗を作らないか」と言われ、直ぐにコンテナ苗にチャレンジした。



出荷直前のコンテナ苗

コンテナ苗は裸苗の経験者にとつて技術的にはほとんど問題なく、むしろ裸苗は出荷までに最低でも3年かかる。苗木の管理には除草、病虫害対策、間引き、追肥など多くの手間が掛かり、出荷時の掘り取りと梱包にはさらに多くの労力がある。そ



板津徳次さん

の上、夏場は広い畑すべてに散水できず枯れるなどのロスもあった。一方、コンテナ苗は軽く、掘り取りの手間がないし、施設での自動散水など管理も楽である。また育苗の畑がいらないので、裸苗の4分の1程度の敷地で栽培できる。

ただ富加町長になり、さすがに両方はできないので一時休業させていただいた。

○今後の抱負や課題は

ここ数年で各務原市や関市の生産者が止められ、県苗組の生産者は中津川市1名と加茂地区4名となったが、それでも加茂地区だけでコンテナ苗を年間22万本以上生産(県苗組加入者以外の企業生産者等を含めると県全体では約85万本生産している)。

コンテナ苗は労力も軽減され、技術的にもそんなには難しくない。問題は初期の設備投資に経費が掛かることだが、ある程度造林面積が拡大していけば、若い人や企業が参入できる。今年、息子さんに引き継がれた会員もあった。

私も暇になったので苗木造りを再開した。また、今年度県の補助金を受けて新しい生産施設も整備した。



自動散水できる新たな生産施設

スギとヒノキがメインだが、頼まれてコナラなどの苗も作っている。コンテナにタネ(ドングリ)を直接埋め込む試験もやっている。



コナラ等のコンテナ苗

10年位はやっていきたい。年々年なのでそんなに増やせないが、10年位はやっていきたい。

広葉樹の活用 → きのこと生産支援!

きのこと原木の伐採技術者養成を行いました(開催報告)

広葉樹の丸太(「原木」と言います。)に菌を打ち生産する原木栽培のしいたけは、その風味や食感が好まれ主に道の駅など岐阜県内の直売所で人気のきのことです。

しかし、原木用の広葉樹を伐採する林業技術者は高齢化などにより減少し、新たな担い手確保が切実な課題となっています。

県では、令和7年11月4日と5日にかけて高山市他で『広葉樹伐採技術者養成研修』を開催し、林業技術者等10名が参加し、きのこと原木の生産に必要な知識や伐採技術等について学びました。

研修では、きのこと原木を生産する(有)greenlabo 代表 芝山敬介さんと原木しいたけ生産者の(有)しいたけブラザーズ 代表 横田泰弘さんら、二名の講師から具体的な解説・指導を受け、日頃は建築用材などの針葉樹を扱うことが多い参加者に広葉樹伐採ときのこと原木生産に重要な下記のポイントを理解してもらうことができました。



伐採技術指導のようす(11/5 高山市内)
※林道管理者の承諾を得て実施しています。

きのこと原木生産のポイント

●仕上がり・品質

- きのこと原木の品質が、きのこと生産量に大きく影響する。
- 玉切りしたきのこと原木が製品であると意識を持つ。
- (建築用材は製材加工を経て製品になるため、林業現場では素材として生産。)

●伐採・集材作業

- 広葉樹の特性を理解したうえでの安全作業が必要。
- (広葉樹は樹形などが複雑で倒す方向の見極めが難しい。針葉樹よりも幹裂けが起きやすい など。)
- 原木に利用する部分は樹皮に傷をつけない。
- (重機で直接掴まない。傷のある原木は、しいたけ菌の成長が悪くなりしいたけの収穫量も少なくなるため。)
- 曲がりかひどい部分は採材で除去。
- (作業効率低下やしいたけの形状を悪くするなど収益性に影響するため。)

●作業工程・生産計画

- きのこと原木は手造材など人力の作業が多いため効率アップの工夫(道具や工程)や、未利用部分の有効利用(太い部分の薪材生産)で収益アップの工夫が大切。

県内でのきのこと原木生産を推進するため、県では技術指導や原木生産の経費補助を行っています。

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8483 県産材流通課 資源活用係まで

わが組合の頑張るマレツシヤーズ

【南ひだ森林組合 下呂市】 今井宏紀さん 2025年入社 下呂市出身



を痛感しました。その分作業が終わった現場が綺麗に明るくなっているのを見ると、達成感があり、次も頑張ろうと思います。



(左) 細江組合長 (右) 今井さん

【林業就業のきっかけ】

前職は工場で働いていましたが、外で働ける仕事がしたいと考えていました。私の家にも山がありますが、一度も行った事がなく放置状態でした。そこで、山の知識も勉強でき、外で働ける林業がしたいと思い就職しました。

【就業しての感想】

実際に働いてみると、考えていた以上に体力的にきつい事と、同じ状況が何一つない、そして正解がない中で、自分で考え作業をする難しさ



ウインチ集材機を操縦する今井さん

【自信がでてきた仕事は?】

まずはウインチ集材です。集材の時にワイヤーを巻いたら木がどう動くかが何となく分かってきて、詰まった時の対処が出来るようになり、木がスムーズに出せるようになってきました。それと、チェンソーの取り扱いにも慣れてきました。狙った位置に大分倒せる様になり、バーを挟む事も少なくなってきたと思います。

【EYEの入り口】

色々な現場で作業を経験しましたが、木が混んでいて薄暗い森林が、整備後に光が射して明るく綺麗になったのを見ると、大変な思いをしながらもやって良かったと思います。これからも森林整備により、いい山づくりを行う事で、山主の方に森林組合に頼んで良かったと思ってもらえる様に頑張っていきたいと思えます。そして、体力的にきつい仕事なので体調管理と怪我に気を付けて作業していきたいです。



伐採作業中の今井さん

【今後の抱負】

今後先輩方を見ながらすべての作業が出来る様に技術を身に付け、少しでも早く一人前になってみんなから頼られる様に頑張ります。そして、担い手が減っている林業に貢献して行きたいです。

【代表者からのエール】

真面目で、一生懸命に勉強し、常に努力してくれています。これからも森林所有者様の山をより良くしたいという熱い気持ちをお大切にし、安全に十分気を付けて頑張ってください。



グラップル付きフォワーダを操縦する今井さん

【林業を志す人へのメッセージ】

森林整備は、私たちの暮らしと自然を守るために欠かせない取り組みです。

担い手の皆様が元気に活躍していただけることが、森林を守り、未来へ繋いでいくためにも重要です。

詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-129138608

「森のシヨフステーション」まで

森林環境譲与税のお悩み相談は、 地域森林管理支援センターへ

第12弾

—「森林を活用した持続可能な地域づくり」—
～自然資本価値の最大化を目指して～

地域森林管理支援センター 副センター長 小島 徳文

高市政権が発足して、3か月が過ぎました。「働いて働いて働いて働いて働いてまいります」で流行語大賞を獲得して、益々、エンジン全開といったところでしょうか。政権の目玉でもある片山財務相も「効率が悪い税制優遇や必要がない補助金の削減」について進めるとしています。私と同年代のお二人の活躍と言動が非常に気になるところです。

さて、支援センターでは、「岐阜県地域森林監理士」を対象にフォローアップ研修会を開催しており、昨年は10月9日(木)に岡山東栗倉村の上山隆浩副村長をお招きしました。

西栗倉村は、人口が1,300人強で、森林率93%、うち人工林が84%と、林業が基幹産業の村です。上山副村長は、2008年に全く畑違いの部署から産業建設課長に就任すると、「百年の森林構想」を立ち上げ、自治体による長期施業管理委託、森林認証、森林クレジット等、林業を起点とした先進的な取組に次々と携わってこられました。

今回は、「森林を活用した持続可能な地域づくり」をテーマとして「百年の森林構想」についてご講演いただきましたので紹介します。



上山隆浩副村長

★「百年の森林構想」は、森林経営管理制度のモデル？

森林経営管理制度は西栗倉村の「百年の森林構想」がモデルとなっているが、「百年の森林構想」は、「負の遺産になりかけた人工林を誰が管理するのかを解決する」のではなく、「自治体が地域の資本を最大限に活用して、社会・経済・環境を創る取組み」であるとの説明がありました。

★「百年の森林構想」を推進するための3つの目標と取組み

地域の自然資本(森林)の価値を最大化するため、①自然資本を公共のモノとする合意形成を地域で行う、②自然資本の価値を再生可能エネルギーで高める、③自然資本の価値を再発見し、価値を高めるプレイヤーを創る、の3つの目標を中心に推進されています。これらの目標をより効率的に実現するために、横断的に実施している一部の取組みを紹介していただきました。

1. 「百年の森林事業」を管理専門集団へ移譲

当初、「百年の森林事業」は、村を支える基幹事業という位置づけで役場主導で10年間進めていましたが、村の定期的な人事異動や人員不足が課題であることから、事業を管理する専門集団が必要となり、2019年に事業主体を「株百森」へ移しました。

2. 「地域おこし協力隊」制度の活用

林業の活性化を目的として、地域おこし協力隊制度を活用しています。活動内容としては、①起業し任務終了までに事業の自立を目指す「起業型(4人)」、②村内企業の新規事業・プロジェクトに参画する「企業研修型(28人)」、③行政課題の解決、政策推進のための事業に参画する「行政連携型(8人)」であり、②の人数が圧倒的に多いことが特徴です。

3. 多くの起業と産業クラスターの形成

企業と連携しローカルベンチャースクールを開催することで、今までに村内で62社のローカルベンチャーが起業しています。林業を基点に自然資本の価値を再発見し、その価値を高めるプレイヤーが集まることで、ローカルベンチャーの産業クラスターが形成され、企業との連携による地域課題解決型事業の創出に繋がっていきます。

4. 他省庁の各種交付金なども活用

事業を推進するため総務省の「デジタル田園都市国家交付金」など様々な交付金を有効に活用しています。

★おわりに

いかがでしょうか? 持続可能な森づくりの仕組みについて、まだまだ紹介したい内容は沢山ありますが、紙面の都合でこの辺りまでとさせていただきます。さらに詳しく知りたい方は、右の二次元コードを読み取るか、「西栗倉村 百年の森林構想」で検索してみてください。



森林経営管理制度や
森林環境譲与税に関する
お悩み相談は?

「地域森林管理支援センター」まで

TEL:058-201-5013 FAX:058-275-4398 E-mail:f-shien@g-moriren.or.jp
〒500-8356 岐阜市六条江東2丁目5番6号 岐阜県森林組合連合会内

山の歳時記

冬芽と葉痕

文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事

川尻 秀樹

春の訪れを待つ落葉広葉樹林、この季節は葉がないため、樹種をなかなか特定しづらいですが、その樹種ならではの特有の樹型を知っていればある程度樹種を予測できます。

例えば遠景で見る樹型が羽状型とか箒状型とか、その中間型とかです。その他に枝の伸び方や樹皮のパターンで、更に樹種を絞り込むことができます。

しかしもっと近くで小枝の先の

冬芽や葉柄痕、枝の色あいやトゲを観察できれば、樹種が分かるだけでなく、そこに隠された面白い形を発見することもあります。

まず枝の先端にある冬芽（頂芽）は、春に展開する葉や花が越冬している姿で、樹種ごとに独特な形になっています。

例えばアジサイやムラサキシキブの冬芽は、小さな葉そのものでできた裸芽の状態で冬を越します。

またサクラやコナラの冬芽は、魚の鱗のような芽鱗（鱗片）を何枚も鎧のように着込んでいます。ホオノキは鉛筆の保護キャップのような2枚の芽鱗に包まれており、コブシの花芽は毛皮のコートのような細かい毛が生えた芽鱗をまとっていることで見分けられます。

次に頂芽ではなく、先端から2番芽以降の側芽の下側や横側には、葉の付いていた痕である葉柄痕が観察できます。

この葉柄痕は茎から葉に水分や

養分を運ぶ大切な器官である維管束が、コルク質の膜で封鎖された状態で、樹種によってその維管束痕が動物の顔や空想の宇宙人を思わせる面白い模様を作り出します。

葉柄痕の大きさや形は、葉の大きさや維管束の配列、葉柄内の芽の有無によって決まり、科や属によって維管束の配列や葉柄痕の形が異なるため、樹種の判別に役立つのです。

維管束痕が1個のものは、葉柄痕の形が円形や扁円形、半円形、腎形、三角形等になります。倒松形やT字形のものは維管束痕が3個、または3ヶ所に分かれるものに限られます。O字型や馬蹄形のものには葉柄内に芽がある樹種に限られます。

子どもたちにオニグルミの葉柄痕を見せて「何に見えるか」尋ねると、「ニホンザル」とか「ヒツジ」と答えてくれます。他にもアオキの葉柄痕を見ると、「宇宙人みた

い」とも答えてくれます。

冬の落葉樹林は樹種も分かりづらく、殺風景に思えることも多いのですが、視点を変えて木々を観察すれば予想以上に賑やかに見えてきます。

今年の春はぜひ子どもたちと冬芽や葉柄痕を探しながら、植物が見せる自然の造形を楽しんでみてください。



冬芽と葉柄痕、左からアジサイ、ムシカリ花芽、ムシカリ葉芽、ヌルデ、オニグルミ

*** ~東濃西部地域~ ***

県では、「ぎふ木育」を全県展開するため、10箇所の農林事務所ごとに、地域で活動する木育関係者の交流会や、行政と意見交換する連絡会議を開催しています。その開催状況や、地域でぎふ木育を進めるキーパーソンをシリーズで紹介しています。今号は東濃西部地域です。

連絡会議を開催

東濃農林事務所管内には、木育活動を行っている団体がないことから、個人で活動されている木育実践者4名に出席していただき、管内3市の林務担当者と土岐市社会福祉協議会の担当者を交えて地域連絡会議を開催しました。

会議では、各自の活動状況を報告していただくとともに、日頃感じている課題や悩みを共有しました。その中で「ぎふ木育ひろばの新規認定」について木育実践者側とひろば設置者側双方の視点での意見交換や「木のおもちゃの貸し出し」に関する要望等、様々な議論が行われました。

東濃西部地域のキーパーソン

三浦 美奈子さん

(岐阜県シェアリングネイチャー協会理事)

Q どのような活動をしていらっしゃいますか？

主に東濃地域において、幼稚園保育園における自然体験指導や保育士の研修、親子対象の環境講座など、ネイチャーゲームを通じて木育に関わる活動を行っています。また最近では地元、土岐市のまちづくり活動にも参加しています。



Q 活動するうえで大事にしていることは何ですか？

指導者自身が心から自然を楽しむこと。またその感動を子どもと一緒に分かち合うことが、子どもの感性を育むことにつながると思います。



Q 「ぎふ木育」を推進するうえで必要なことは何だと思えますか？

他県から移住してきて地元のつながりが薄かったのですが、地元の人とつながりを大切にしたことにより、いろいろな人とつながりができ、子育て支援、まちづくりをしている方と一緒に取り組みをする機会ができたりと、活動が広がっています。いろいろな分野の人とつながり、協働していくことが「ぎふ木育」を推進していくうえでも大切なことではないかと思えます。

ぎふ木遊館通信

ぎふ木遊館のギャラリーでは、岐阜県の豊かな森林資源や森林文化、木工作品、県内市町村等におけるぎふ木育の取り組み等を紹介する企画展を実施しています。今回はその中でも令和7年11月から令和8年1月まで開催されたギャラリー企画展についてご紹介します。

ひだ木遊館 木っずテラス1周年関連記念行事 「森のつながりと『飛騨の匠の技・こころ』」 (令和7年11月1日～11月30日)

11月16日にぎふ木遊館のサテライト施設「ひだ木遊館 木っずテラス」が1周年を迎えました。これを記念し、ギャラリーでは同施設を紹介するパネル展示に加え、飛騨の森に自生する樹木や高山市内で活躍する木工職人の皆さんの作品をご紹介します。

展示では9種類の板材とそれにつわるクイズを用意しました。板材に触れ、香りを楽しむことで、来館者に五感を使った樹木との触れ合いを体験していただきました。

また、森にある1本の木がさまざまな製品へと生まれ変わる過程を視覚的に学べる展示も好評でした。木材が生活に溶け込むまでのストーリーを知ることで、木の価値を再認識する機会となりました。

さらに、「飛騨匠の技・こころ」をテーマに、飛騨春慶をはじめとする伝統的な木工作品を展示しました。高山市の森林資源の豊かさ、それを活かした繊細な匠の技に多くの来館者は驚かされていました。



↑ 板材と各木材を使った作品の展示



← 一位一刀彫の作品展示

恵那市の木工作家による作品展 (令和7年12月4日～令和8年1月5日)

恵那市内の工房や建具店等が手掛けた作品を展示し、スプーンやフォーク、子ども用椅子、組子建具の技術など、日常に寄り添う美しい木工品をご覧ください。

展示品は木のぬくもりを感じる作品ばかりで、暮らしに取り入れたいような、木工品の魅力を再発見する場となりました。

また、恵那市森林環境教育推進協議会(愛称:えーな木育クラブ)の活動紹介パネルも展示し、地域における木育の取り組みを紹介しました。こうした活動は、未来を担う子どもたちに森林の大切さを「伝える」重要な役割を果たしています。

展示ではクリスマスシーズンに合わせ、木製のクリスマスツリーとトナカイが登場しました。

華やかな飾りとともに、来館者から「すごい!」と声がるほどの人気を集めました。木のぬくもりを感じるクリスマス装飾は、訪れる人々にやさしい時間を届けました。



↑ 木製の鏡餅やスプーンの展示



木製のトナカイ

☆ぎふ木遊館公式Instagramのご紹介☆

ぎふ木遊館で行われる木育プログラムやイベント情報、館内の様子や木のおもちゃの話等を公式Instagramにて発信しております!

まだ来館したことない方も当館の様子がわかりますので、ぜひフォローをお願いします。



GIFUMOKUYUKAN0717



やがてみんなの森になる

morinos

冬の楽しみ方!

岐阜県立森林文化アカデミー・森林総合教育センター (morinos) は森と人をつなぐ「森の入り口」となる施設です。今回は冬でも、冬だからこそできる活動を紹介します。

<冬こそおいでよmorinosへ!寒~い冬の楽しみ方とは?>

寒さの厳しい冬。そんな日はつつい家の中にこもりがちです。…が!こんな日こそmorinosに遊びに来ませんか? なんとなく寂しい雰囲気がある冬ですが、この静寂を楽しむのも冬の醍醐味です。また、morinosの名物になりつつある焚き火で温まりながら冬でもアクティブに活動ができますよ!



落葉樹は冬に葉を落とすので、冬の森は1年で1番明るいですよ。鳥が見やすいのでバードウォッチングもおすすめ。森を歩くと体がぼかぼかになり、冬の冷たく澄んだ空気で深呼吸をすると気分がすっきりします。いつもとは雰囲気の違う冬の森を楽しみましょう!

寒いときこそ炎のありがたさを感じる焚き火。温まるもよし、芋やウインナーを焼いて腹を満たすのもよし。



焚き火と一緒に薪割り体験もいかがでしょうか?焚き火において薪割りは必須工程!薪を割って体を温め、さらに焚き火で体を温める…寒い冬こそ一度で二度おいしい薪割り&焚き火体験をしてみませんか?

葉っぱもたくさん落ちてきてすっかり冬景色に…。落ち葉の山を踏むとフカフカですし、サクサク、ザクザクというんな音が聞こえてきて楽しいですよ。



拾った落ち葉は重石を乗せておくと、まっすぐきれいになって素敵な宝物になります!遊びや工作のアクセントなどいろんなことに使えます。あなたのお気に入りの落ち葉を探してみましょう!



morinosセンターハウスは、冬には太陽の日差しが入る建物のひさし角度と断熱ガラス効果+薪ストーブで、室内はとってもあったか!薪ストーブの燃料は、薪に加えて木くず等の植物性バイオマスを原料にした固形燃料「木質バイオマスコークス(写真)」を試験的に使用しているので、ぜひ見に来てね!

冬の空からの贈り物…雪。雪が積もったらぜひmorinosへGO!思いっきり雪にダイブ、そりで雪山滑り、雪だるま作りなどなど。一味違うmorinos流雪あそびを楽しんでください。



morinos HPでは、こうした日常風景からプログラムまで、様々な活動報告を行っています。興味を持ってくださった方は、morinosのHP、YouTube動画をご覧ください。

ホームページ <https://morinos.net>

開館時間 10:00~16:00

YouTube 検索「morinosチャンネル」

定休日 毎週火・水曜日



morinosHP



YouTube
「morinosチャンネル」

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

10

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取り組みを行っています。こうした取り組みの内容について連載で紹介いたします。



岐阜県野生動物管理推進センターによる調査研究の推進

野生動物の保護管理、被害対策に関する調査研究を行うとともに、野生動物管理における専門的な人材の育成を目的として、岐阜大学と県で「岐阜県野生動物管理推進センター」を共同で設置しています。

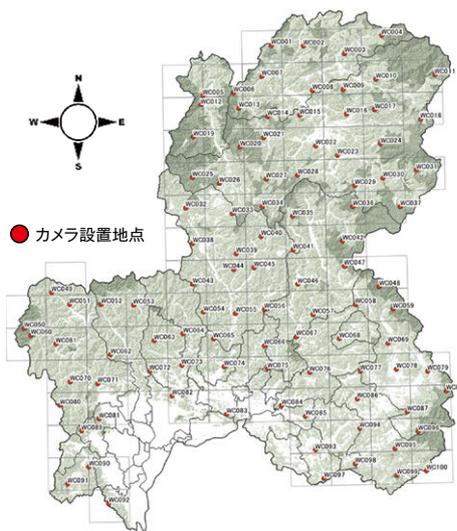
■調査・研究

●野生動物広域カメラモニタリング

- 野生動物の保護・管理をより効果的に進めるには野生動物の生息状況を把握する必要があります。
- そこで県下に100台の自動撮影カメラを設置し、野生動物の種類や分布を長期的に調査しています。



撮影された野生動物



●カメラ設置地点

- その他にも、GPSによるニホンジカの行動追跡や高山帯へ侵入する野生動物などについて調査研究をしています。

■人材育成

- 一般の方を対象に、研究成果の紹介や野生動物との関わり方を学べる、シンポジウム・講座を開催しています。
- 行政関係者を対象に、野生動物管理に関する助言や対策の進め方に関する講座を開催しています。



研究成果を紹介する講座 (R6.9.20)



獣害対策の現地助言 (R6.5.17)



岐阜県野生動物管理推進センターについてもっと知りたい方はこちら





施設全景

施設の概要

事業年度	令和6年度
事業主体	高山市
構造 延床面積	鉄筋コンクリート造2階建ほか 5,092㎡
施設用途	義務教育学校、保育所、給食センター
木材使用量 使用樹種	県産材使用量 10.39㎡ (木質化面積714㎡) 主な使用樹種 スギ、ヒノキ
全体事業費	2,906,294千円
助成額	3,775千円(ぎふ県産材利用促進施設等整備事業)
設計者	大建設計株式会社
施工業者	堀口・林特定建設工事共同企業体
事業期間	令和5年9月～令和7年3月

施設の経緯

荘川地域では、荘川小学校・中学校の老朽化と児童・生徒の減少が年々進行するなかで、「荘川地域だからできる人づくりを進めたい」という地域の思いを踏まえ、地域の方々との対話を重ねた結果、保育園を併設した小・中一貫の義務教育学校を整備する運びとなりました。

新校舎は旧荘川小学校の校舎を改修。旧体育館については解体し、体育館と特別教室棟、保育園が一体となった建物を新たに建設しました。

新たに誕生した学び舎では、保育園から義務教育期間の12年間のつながりを大切にした「人づくり」に取り組みます。



郷土学習や地域利用などに活用できる地域交流スペース

複式学級に対応した開放的なクラスルーム

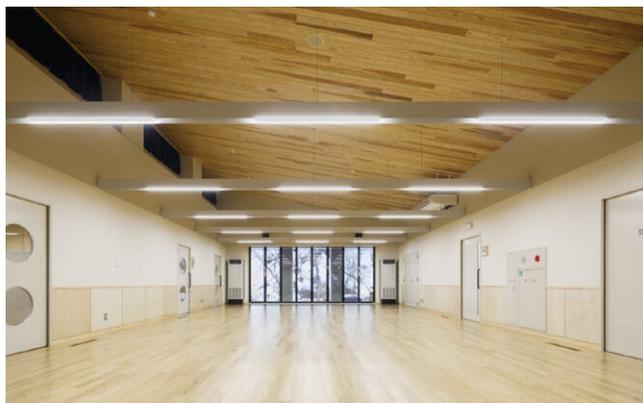


ここに注目!!

木のぬくもりを感じられる広々とした空間は、「通いたい」「通わせたい」が詰まった環境です。地域交流スペースの大階段は、子どもと大人の交流拠点です。

利用者の様子

園児、児童生徒、地域みんなが誇りと愛着を持ち、ともに成長できる場として、木と人のぬくもりを感じながら、あふれる笑顔のなかで豊かな学びを行っています。



開放できる大きな窓がある保育園の遊戯室

問い合わせ先

高山市教育委員会事務局
教育総務課
TEL 0577-35-3153



森林と人を 生かす知恵 157

地域材とデジタル加工がつなぐ、 新しいものづくりのかたち

岐阜県立森林文化アカデミー 講師 ● 渡辺 圭

森林文化アカデミー木工専攻では、これまで地域材をいかに身近に、そして無理なく使っていくかをテーマに、製材や乾燥、利用のあり方を模索してきました。今年度、新たにCNCルーターが導入されたことで、そうした取り組みに新しい可能性が加わりました。

CNCルーターは、コンピューター制御によって木材を高い精度で加工できる機械です。手仕事では時間がかかる加工や、形状の再現性が求められる部材も安定して製作することができ、近年は木工や建築の分野でも活用が広がっています。アカデミーでも、従来の手加工の技術を大切にしながら、デジタル加工を組み合わせることで、地域材の利用の幅をさらに広げていきたいと考えています。



写真①：CNCルーターによる加工風景



写真②：UDATSUMU 完成写真



写真③：UDATSUMU 裏面
(使用した樹種名の刻印)

このCNCルーターを使った最初の取り組みの一つが、ドイツ・ロッテンブルク林業大学のカイザー学長らが来校された際の記念品製作でした。一つ目は、学生有志がデザインを担当した「UDATSUMU」と名付けた木製のオブジェです。岐阜の町並みに見られる「うだつ」から着想を得た形で、CNCによる加工だからこそ可能な、シャープさと木の柔らかさを併せ持ったデザインになりました。学生自身が考え、試作を重ねながら形にしていく過程は、デジタル加工を学ぶ上でも貴重な経験となりました。

もう一つの記念品は、学内で伐採されたカツラの木を使ったペントレーです。



写真⑤：ペントレー裏側
(ロッテンブルク林業大学と
森林文化アカデミーのロゴ)



写真④：学内で伐採されたカツラを用いたペントレー

これまでも演習林や学内で伐採された広葉樹は、家具や備品として活用してきましたが、今回はCNCを用いることで、家具としては使いづらい厚みやサイズの木材を、無駄なく有効に活用し、小物として仕上げることができました。身近な場所です育った木が、形を変えて人の手に渡っていく。その流れを目に見える形で示せたことは、とても象徴的だったと感じています。

いずれの記念品も、県内の広葉樹を用いて製作しています。広葉樹は樹種が多く、一本ごとに性質が異なるため扱いが難しい面もありますが、その分、表情豊かで魅力的な素材です。CNCルーターをうまく使うことで、そうした広葉樹の個性を活かしながら、安定した加工や新しい表現に挑戦できるのではないかと考えています。

県内各地では、これまで十分に使われてこなかった広葉樹や、公共施設や公園などで伐採された木をどのように活かしていくかが課題となっています。アカデミーでのこうした小さな実践が、地域材の新しい使い道や人材育成の一例として、今後の森林・林業施策を考える上でヒントになればと思っています。

地域材の活用には、特別な設備や大規模な仕組みだけでなく、小さな工房や教育の現場でもできる工夫も必要だと思います。これからも、製材や乾燥とあわせて、CNCを含む加工の工夫を重ねながら、地域材を無理なく、楽しく使い続けられるモデルを提案していきたいと考えています。

●詳しい内容を知りたい方は TEL (0575) 35-2525 県立森林文化アカデミー まで

スギに設置したツリーシェルターの撤去をしてわかったこと

森林研究所 片桐 奈々

はじめに

森林研究所では、ツリーシェルター（以下、シェルター）のチューブ型とネット型を施工したスギの成長を調査してきました（図1）。

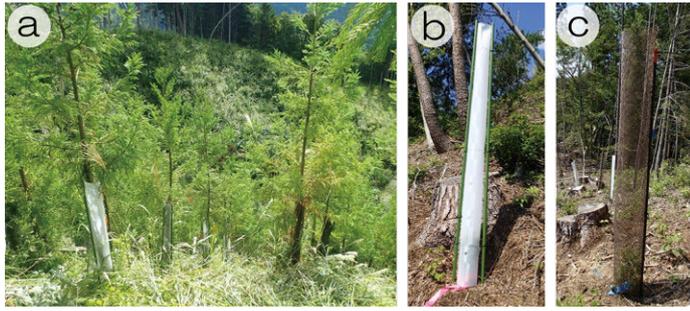


図1 ツリーシェルター試験地
a: 植栽後約6年経過した様子
b: チューブ型シェルター
c: ネット型シェルター

令和7年4月には植栽から6年経過し、試験木のほとんどがシェルターの高さを超えて大きく成長したため、シェルター撤去に要する労力の調査を行うことになりました。

ツリーシェルターを撤去する際の 問題点

撤去を行い、問題が2つわかりました。1つ目はシェルターの構造が撤去時間に影響することです。ネット型は本体の目合いが6mmで、枝葉が多数飛び出ており（図2）、本体を外す際、枝を切らないようにして、できない場合は枝を付け根で切る必要があります。枝を中途半端に切つて枯枝ができると、死節、枝虫被害、腐朽や変色を引き起こす可能性があるため、注意深く作業を行わなければなりません。そのため、ネット型の本体の



図2 チューブ型本体から飛び出た枝葉

撤去はチューブ型よりかなり時間がかかりました。この場合、撤去を効率化して時間を短縮することは困難ですが、設置前に目合いが大きいシェルターを選ばないことで、手間のかかる撤去を避けることができます。

2つ目の問題は、成長して根元直径が大きくなるほど、支柱やシェルター本体を地面に固定するペグが抜けにくい、もしくは抜けなくなることです。スギは成長が早いため、植栽後6年目には支柱と根元が接触し、支柱の撤去に時間がかかる個体がありました（図3）。撤去を効率化するために、植栽後5年目くらいに根元直径の現状をみて撤去を検討してみる必要があります。またペグは、ペグ抜きハン



図3 チューブ型の支柱に接触するスギの根元

マーを使うと効率よく抜けます。

おわりに

シェルターの構造は撤去効率に影響することがわかりましたが、撤去のしやすさのみでシェルターを選ぶことは危険です。植栽木の成長や食害防止効果も、シェルターの構造によって大きく変わります。これらの特徴を全て把握したうえで、失敗しないシェルターを選びましょう。

● 詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-333-2985
森林研究所まで

地域の林業事業体の連携をめざして!!

恵那農林事務所 林業課 林業普及指導員 時任大樹



◆はじめに

私の担当する普及指導区である中津川市は、市総面積の8割、約54,000haの森林を有し、民有林面積37,666haのうちヒノキ人工林が約半分を占める（県平均26%よりはるかに多い）、県下有数のヒノキの産地です。



裏木曾御用材伐採式
写真提供：中津川市役所林政課

産出される「東濃松」は品質が高く、地域ブランドとして有名で

あり、さる令和7年6月には、20年に一度の伊勢神宮の式年遷宮に向けた「裏木曾御用材伐採式」が中津川市内で執り行われ、地元地域の人々の森林、林業に対する関心を高めました。しかし、地域の森林整備・木材生産を担う森林技術者の人数は現状横ばいで、人手不足の状態にあります。

◆管内での連携状況の現状分析

恵那農林事務所に赴任して3年間、森林組合・林業事業体等へ普及指導、調査してきた中で得られた情報を取りまとめ、管内の森林組合や民間事業体のそれぞれの相関関係・連携状況の分析を行いました。

中津川市は、県内唯一の市内に3つの森林組合（中津川市森林組

合・付知町森林組合・加子母森林組合）を有しているほか、林業会社、個人など多様な事業体が存在します。

市内での森林整備の実績をしてみると、森林組合が主に森林整備を担っており、その面積は私有人工林の約半数を占めます。残りの半分の約1万haが未整備（10年以上手入れされていない）森林であり、それらをどのようにして整備していくかが課題となっています。

また、森林組合と連携して森林整備に取り組まれる協力事業体は一部の事業体に限られていました。

◆木材供給体制確立研修の開催

未整備森林の解消や地域での木材の安定供給に向けた林業事業体の事業連携の可能性を探るべく、

講師として林材ライター・赤堀楠雄氏を招へいし、中津川市内で主に活動される林業事業体を対象とした研修会を開催しました。



講師・赤堀 楠雄氏

開催日：令和7年11月18日（火）

林業会社の経営者、建設会社の林業部門担当者、新たに起業して林業に取り組む者など市内の林業事業体12者のうち9者が参加されました。

〈研修内容〉

〈話題提供〉

農林事務所から、市内の森林組合・林業事業体の実態・課題を説明したうえで、事業体同士の協業連携に向けた話題提供を行い、赤堀さんから人材の確保に向けた魅力ある林業経営体づくりについて他県の事業体での取組とともに紹介していただきました。

全国各地の林業地、材木屋を取材される赤堀さんだからこそ貴重なお話を聞くことができました。

〈事業体へのインタビュー・課題共有〉

林業事業体に対して赤堀さんからインタビューいただき、林業事業体の方から今の業務、施業への思い、課題・困っていること、今後の展望等をそれぞれ皆の前で語っていただきました。

国有林内の請負施業や特殊伐採、支障木伐採など普段の業務内容、場所も様々である。施業の展望としては地域の森林整備に取り組みたいという思いと、単独で取り組むには限界があり今後連携していきたいという意向を互いに認識し合うことができました。

その一方で、課題として業務の予定スケジュール、内容や場所等についての情報を共有できる連絡体制がないこと、異なる事業体同士が協働するにあたって施業方針が合うかどうか不安である、森林組合の協力事業体となるための条件があり、それらをクリアすることは小規模事業体にとって高い

ハードルである等の各事業体における課題を共有しました。



研修会のようす

◆まとめ

今回の研修を通じて、同じ地域で林業に取り組む者同士が連携し合うきっかけとなる機会を設けることができました。

今後、地域に合った事業体同士が連携し合える仕組みをつくっていきけるよう、引き続き支援、指導していききたいと思えます。

研修会終了後、知り合いでなかった事業体同士が進んで名刺を交換し合い、情報交換されている光景がとても印象的でした。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL0573-2611111内線(305)

恵那農林事務所まで

スマート林業通信 51

人、環境、機械にやさしい混合燃料「ASPEN2」

チエーンソーや刈払機の排ガスには、ベンゼン、芳香族炭化水素、オレフィンなど健康問題を引き起こす可能性もある物質が含まれており、林業現場の作業員は、これらを至近距離で浴びている現状にあります。

そんな中、2025年4月より、スウェーデンのASPEN社が開発した、人、環境、機械にやさしい混合燃料「ASPEN2」の販売が日本でも開始されましたので紹介します。



【ASPEN2の特長】
最大の特徴は、通常のガソリンに比べ、不純物が少ないことにあります。通常のガソリンが、約350種類の成分を含むのに対し「ASPEN2」は約10種類の成分で構成されており、健康問題を引き起こす可能性がある有害物質の割合が大幅に低減されていることです。

【メリット1】
「ASPEN2」を使用することで次のような効果が得られるとのこと。●有害物質が一般的なガソリンの15分の1で人体にやさしい。

●エンジン部分に堆積するススが減るため、機械の寿命が延びる。

●エンジンオイルが50対1で混合済みのため、混合する手間が省ける。●腐りにくく長期保管が可能。●環境への負荷が少ない。

成分	ガソリンの含有量	ASPENの含有量
ベンゼン ごく少量でも発がんリスク。白血病にも。	約1%	0.1%未満
芳香族 (アロマ) すす・黒煙と神経毒性を引き起こす。	25~35%	1%未満
オレフィン NOx (窒素酸化物) とスモッグを増やす。	10~15%	1%未満
n-ヘキサン 燃焼中にベンゼンを発生させる。	3~5%	0.5%未満
シクロヘキサン類 長時間吸うと手足のしびれなど神経障害。	約5%	2%未満
エタノール 燃料を薄めるとNoxを増やす。	0~22%	0%

【メリット2】
●価格が1リットルあたり890円と通常の混合ガソリンと比べ3~4倍ほど高い。

【メリット3】
通常の混合燃料を使用してエンジンを吹かすと鼻にツンとしたにおいがするのに対し、「ASPEN2」の場合、においが気にならず、人体や環境への負荷が少ないように感じられました。コスト面での負担はありますが、使用を検討してみたいかがでしょうか。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL0575-3512605

森林文化アカデミースマート林業推進係まで

ルートが変わります 御嶽山小坂口

筆者は、登山を趣味としていますが、ほぼ毎年、登っている山の一つが御嶽山です。

御嶽山には、いくつかの登山道があります。岐阜県側には小坂口、日和田口、胡桃島口の3ルートが現在あり、一般的に登られているのは、濁河温泉から登る小坂口ではないでしょうか。

以前の小坂口ルートは、濁河温泉の駐車場から嶽橋を渡って御嶽神社里宮を横手に見ながら通過し、少し歩くと仙人滝との分岐、その先の棧道を左下の谷底に仙人滝を見ながら通過ししばらくすると、草木谷にかけられた立派な吊り橋「仙人橋」に到着します、この先がよいよ本格的な登山道となるので、ここで休憩してから山頂を目指したものです。

ところが、平成30年6月28日、

のちに西日本豪雨災害と呼ばれる豪雨は御嶽山の西麓も襲いました。この豪雨により草木谷も大荒れし、仙人橋も流されてしまいました。

下呂市では、既存の原生林遊歩道などと組み合わせて、駐車場から仙人橋の先まで、草木谷を渡らないルートを2カ月弱という短期間で開設しました、このルートが現在の登山道となっております。

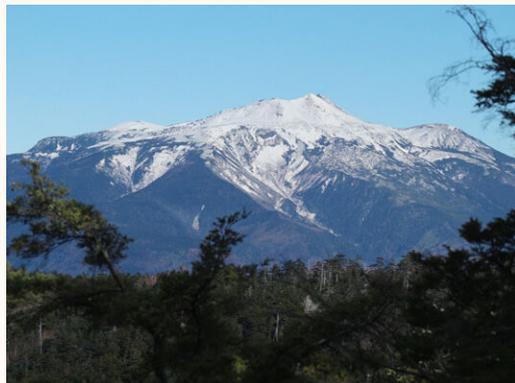
現在のルートについて、木道橋の劣化や登山道の荒廃が確認されたため、下呂市では火山災害時や遭難発生時の救助活動のため、再整備・改修するか新ルートを整備するか検討し、自然災害に強く、より恒久的な登山道として新ルートを整備することとなり、維持管理費が最小限となるよう、構造物の設置を抑制した、持ち込まない、

持ち出さない工事を設計・整備の方針としました。

新ルートは、安定した地盤である尾根を通過する登山道を目指しました。現地踏査では、下呂市の担当者と森林官が何回も足を運び検討しました。

令和7年7月4日～10月31日の工期で登山口から1km付近の湯ノ花峠にかけて延長1.5kmを岐阜県の火山防災施設等整備事業補助金を活用し開設しました。

新しく開設された登山道は、尾根沿いに開設されているため、現在のルートでは見られなかった乗鞍岳や笠ヶ岳を天気が良ければ見ることができそうです。現在のルートの名物？ジョーズ岩は見る事ができなくなりますが、新ルートにも特徴的な岩が点在していますので名前を付けるとしたらなにがいいかと考えるながら登るのも楽しいかもしれません。



新ルートから見た乗鞍岳



新ルートの様子

なお、一般開放は、令和8年の雪解け後、安全を確認してからとなりますので、夏山シーズンぜひ御嶽山に小坂口から登ってみてはいかがでしょうか。

(岐阜森林管理署)

森林・林業関係イベントカレンダー(2月)

一般向け

開催日	行事名等	内容等	場所
			申込(問合せ)先/TEL
2月6日(金)	ぎふ木育交流会	<ul style="list-style-type: none"> ●時間 13:00~16:00 ●内容(予定): 県内各地で木育や自然体験活動を行う団体や指導者等を対象に交流会を開催 ●対象: ぎふ木育の指導者、森のようちえん活動団体、プレーパーク実践団体、保育士、教員、自治体関係者、学生等 ●定員: 50名程度 	せきてらす (関市平和通4丁目12番地14) 森林活用推進課木育推進係 TEL: 058-272-8821
2月17日(火)	令和6年度岐阜県治山林道研究発表会	<ul style="list-style-type: none"> ●時間 10:00~15:00 ●内容(予定): 岐阜県内の治山林道事業に携わる技術者が日頃の研究成果を発表 ●対象: 岐阜県治山研究会員、岐阜県林道研究会員 ●定員: 200名程度 	岐阜県庁舎1階 ミナモホール 森林経営課 058-272-8489 森林保全課 058-272-8526

森林・林業関係イベントカレンダー(2月)

林業者向け

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
2月13日(金)	刈払機取扱作業者安全衛生教育	<ul style="list-style-type: none"> ●講習時間: 学科 9:00~15:20 実技 15:30~16:30 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 11,770円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。) 	ぎふ森林文化センター (岐阜市六条江東2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月18日(水)~ 2月20日(金)~	伐木・チェーンソー作業従事者特別教育	<ul style="list-style-type: none"> ●講習時間 18日 学科 8:50~17:10 19日 学・実 8:50~12:30 20日 実技 8:30~17:10 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 24,200円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。) 	18日(学科) 19日(学・実) ぎふ森林文化センター (岐阜市六条江東2-5-6) 20日(実技) (樹木の国 土場(山県市椎倉203-1)) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月27日(金)	作業計画の作成のための安全衛生教育	<ul style="list-style-type: none"> ●講習時間: 9:00~16:30 ●申込: 開催日の20日前まで ●受講料: 13,420円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。) 	ぎふ森林文化センター (岐阜市六条江東2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195

コラム

私の実家がある白川町は、平成初期まで高値で取引された東濃ひのきの産地として、自伐林家、製材業、建築業等森林に関わる産業が盛んでしたが、現在の白川町は、過疎化が進み、町の人口は昭和30年代の18,000人をピークに現在は7,000人を下回るまで減ってしまいました。それでも町を挙げて人の呼び込みを行ったため、地域おこし協力隊、トマト栽培、無農薬野菜栽培等で全国から若い移住者が来てくださり、町を盛り上げてくださっています。

私の親は、トマト栽培と林業で生計を立てていたのですが、我が家には田畑や森林はそれなりに有りますが、私の代になり恥ずかしながら耕作放棄地が増えています。私は農林業が嫌いでは無いので少しの面積ですが作物を育て、所有林から毎年コナラ等を数本伐ってキノコを育てています。幸いにも近年では移住された方の知り合いが増え、原木シイタケ植菌作業や原木マイタケ殺菌作業を手伝って頂けるようになり、その時期は楽しくやっております。

森林のたよりに読んでくださる方の中には、実家が田舎の方も多くおられ、色々悩みも有ると思いますが、森林・林業・農業で田舎の良さを前面に出し、移住して下さる若者の知恵をお借りして、田舎で楽しく・稼げる・暮らせる未来が来ることを願っています。

「森林のたより」編集委員 森林文化アカデミー 藤井 敦

3月号予定

イベント情報

連載

- 山の歳時記(247)

地域の人

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(158)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(154)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他

3月1日
発行

木材市場

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配
第1895回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	14,200	—	→
			16~18cm	14,200	—	→
		4 m	20~22cm	14,900	—	→
			24~28cm	14,800	—	→
			30cm以上	14,000	—	→
	ひのき	3 m	16~18cm	21,800	—	→
			20cm以上	19,500	45,000	→
		4 m	16~22cm	21,300	—	→
			24~28cm	19,500	—	→
			30cm以上	19,200	77,000	→
		6 m	16~18cm	—	—	→
			16~22cm	—	—	→
第1495回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	14,700	—	→
			24~28cm	14,800	—	→
		30cm以上	13,700	28,500	→	
	ひのき	3 m	16~18cm	21,800	—	→
			20~22cm	20,500	—	→
		4 m	24~28cm	19,500	—	→
			30cm以上	19,200	52,000	→
			6 m	16~20cm	—	—
	ひめこ	4 m	24~28cm	13,000	—	→
			30cm以上	15,000	55,000	→
		5 m	40cm以上	—	—	→
			くり	4 m	24cm以上	14,000
第1829回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	14,200	—	→
			24~28cm	14,700	—	↗
		30cm以上元	15,000	24,000	→	
	ひのき	3 m	16~22cm	21,500	33,000	↗
			24~28cm	19,800	31,000	↗
			30cm以上元	28,000	—	→
		4 m	13cm以下	12,000	—	→
			16~22cm	21,700	—	→
			24~28cm	19,800	42,000	→
			30cm以上元	29,000	69,000	↗
		6 m	18~22cm	29,500	—	→
			まつ	4 m	30cm以上元	—

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

スギ4m元木・尺上良材は、活気のある入札、価格は保合。スギラミナ向け3m・4m材は強含み。ヒノキ元木良材4mは入札旺盛で活気あり、価格は強含みで引き合いは強い。ヒノキ3m・4m構造材の価格は強含み。合板向けは価格は保合ながら納材は順調。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。(岐阜)

スギ、ヒノキ並材は横ばい、ヒメコの大径良材は安定した値動き。広葉樹は良材を除き全体的に落ち着いた値動き。高値はヒメコ4.0m×52cm@55,000円、@ナラ3.0m×50cm@85,000円、クリ2.1m×48cm@98,000円、ウダイ4.2m×40cm@38,800円、サクラ2.2m×34cm@39,900円、ホオノキ2.1m×42cm@46,800円、ミスズ2.2m×28cm@38,000円、トチ2.4m×82cm本代222,000円、カシ3.0m×58cm@40,000円(飛騨)

スギ、ヒノキともに、良材への応札が目立ち、市場はにぎわいを見せた。ヒノキは、4mの元木や中目良材を中心に地元工務店からの引き合いが強く、相場は強含み。3m材では尺上材・役物材が堅調に推移した。3m・4m構造材は価格こそ保合ながら引き合いは強い。一方、2m尺上良材は堅調を維持したものの、20cm以下の材は荷動きが鈍く弱含みで推移した。スギは、元木・中目良材ともに価格は保合継続。4m(24cm以上)構造材、3m材ともに保合で推移し、6m長柱向け材(16cm~20cm)は需要が堅調で、引き続き好調な動きとなった。合板向け材は価格保合ながら納材は順調で、ラミナ向けもスギ・ヒノキともに活発な動きが続いている。(東濃)

製品卸売標準価格 (12月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	68,000	(2,249)	→
	間柱	3000	105	30	1等	70,000	(662)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	77,000	(3,396)	→
	柱	3000	120	120	特等	75,000	(3,240)	→
		6000	120	120	特等	155,000	(13,392)	→
W集 ウ成 ッド材	柱	3000	105	105	国産5層	85,000	(2,800)	→
		3000	120	120	国産5層	88,000	(3,800)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (12月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	414	→
	コースト(目荒)	432	→
米楡	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

これってなあに? ~木材用語~

こうしゅこうぞうざい 甲種構造材

針葉樹の構造用製材JAS規格で、目視等級区分製材(構造用)のうち、主として高い曲げ性能を必要とする部分に使用するもの。具体的には、土台、大引、根太、梁、筋違、母屋、タルキなどが対象となる。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典